

調査・提携・支援の三位一体で 「中国進出」「IFRS対応」をサポート

経済成長著しい中国の台頭、国際会計基準(IFRS)はどのように適用されるか——。日本企業を取り巻く環境が激変する中、企業会計のチェック機関である監査法人が果たすべき役割は大きい。設立3年目とフレッシュな監査法人アヴァンティアでは、業界最高水準のサービスと時代を先取りした付加価値の高い情報提供サービスに力を入れている。

若くて意欲的な専門家が豊富

監査法人アヴァンティアは、2008年5月設立と新しいものの、今では国内20位規模の中堅監査法人として知られる。もともと同社は、中堅・中小企業を中心に監査業務を展開。毎年数名の新規人材を獲得しながら、「すべてのメンバーが自分自身で考え、判断し、前進する職業専門家として、常に楽しく仕事ができる適正規模の監査法人として業界最高水準のサービスを目指しています」(法人代表 代表社員 公認会計士の

小笠原直氏)。

スタッフは、公認会計士24名など計39名。上場企業10社、非上場企業複数社のクライアントを抱える。

「新規受嘱手続や監査計画立案・審査、監査意見審査などは、必要かつ十分な品質管理体制を構築しています。監査業務に対するスタンスも、数字の変化をチェックするだけのマニュアルチックなものではなく、『クライアントに何が起きているのか』を常に意識するよう徹底。若くて意欲的な人材が豊富なため、激変する経済動向や法規制などへの対応も万全です」(小笠原氏)。

同社では、メインの監査業務に加え、クライアント企業の一層の成長につながる情報提供サービスに力を入れている。「監査には批判性と指導性という一見相反する側面がありますが、企業側としっかりとした信頼関係があれば両立は十分可能と考えます」(代表社員 公認会計士の木村直人氏)。そんな同社が現在、指導性の部分で重視しているキーワードは、「中国」と「国際会計基準(IFRS)」だ。

中国の上場制度を徹底リサーチ

経済成長著しいアジアにビジネスチャンスを見出す日本企業は多い。特に中国は、販路拡大や拠点進出のほか、最近では資金調達でも注目を集めている。株価低迷が続く日本に比べ、今の中国は空前の新規株式上場(IPO)ブーム。ベンチャー企業の上場も相次ぐなど活力みなぎる中国の証券市場には、世界中の投資マネーが熱い視線を注いでいるからだ。

しかし、日本で中国の上場基準を完全に把握するのは難しい。必要な財務数値や株式数などは公表されているものの、上場審査のポイントや期間、上場維持のための事務量、コスト目安、中国の財務監査レベルなどを知るには、やはり現地での情報収集が欠かせない。

同社では、日本企業のアジア子会社・営業所の開設サポートを行って行く。今後も、クライアントからの問い合わせの多い中国の証券取引所への上場支援にも注力する方針だ。2011年3月には上場制度調査の一環として、数年後に証券取引所が開設されるといわれる天津にスタッフを派遣し、同地で活動している企業や監査法人にヒアリングする。

中国関連サービスの一層の充実を図るための人材強化にも取り組んでいる。6年前に天津から日本に渡り日本語を習得し、日本の公認会計士試験に合格した王 欣氏を2009年に採用。将来の現地幹部候補として、日常の監査業務のほか、日本と中国の監査制度の違いなどを研究している。

「中国の『増値税』は日本の消費税と同じ付加価値税ですが、控除の仕組みなどが異なるため、日本の本部が中国拠点の営業成績を見る際の混乱要因になる可能性があります。税制や会社法は原文にあたるなど、正確な情報提供を心がけています」(王氏)。

欧州監査法人ネットワークに参加

もう一つのキーワードのIFRSでは、先行地域における最新情報の収集・分析に着目。欧州の異なる9カ国の9つの監査法人で構成する監査法人ネットワーク「International Accounting & Audit Network」(通称 I2AN)に、欧州外の監査法人として初めて加盟し、提携先の監査法人と、導入時の対応などについて意見交換している。

I2ANでは年1回、提携監査法人が

一堂に集まり、コミュニケーションを深める。「欧州連合(EU)は2005年、世界主要地域に先駆けてIFRS強制適用に踏み切ったため、当初はかなり混乱しました。I2ANは中堅監査法人のネットワークなので、導入事例も中堅・中小企業のケースが中心です。彼らが持つIFRS導入プロジェクトのノウハウは、大手企業に比べてマンパワーが限られている日本の中堅・中小企業にも、きっと役立つと考えます」(代表社員 公認会計士の西垣芽衣氏)。

監査法人アヴァンティアのグループ会社であるアヴァンティアコンサルティングでは、監査クライアント

などにIFRS情報を提供する場として「IFRSネットワーク」を設立。毎月1回のセミナーでは同社の公認会計士が講師役を務める。1回あたりの参加者は約40名。IFRS導入までのタイムスケジュールや、「包括利益」など日本基準との共通化(コンバージェンス)の過程で



代表社員 公認会計士
西垣 芽衣氏

「2008年加盟したEU9カ国とのネットワーク、I2ANをどんどん積極的に展開したい。中国ほかアジア諸国の監査法人との提携も実現したい」



スタッフ
王 欣氏

「今は、中国会計士試験の資格取得の勉強中。将来はアヴァンティア天津事務所を立ち上げて、日中の経営インフラの懸け橋になりたい」



法人代表 代表社員
公認会計士
小笠原 直氏

「2010年は仏、伊と出張してIFRS欧州事例を研究したが、2011年は2007年導入の中国を調査する。20年以上前から20回以上も訪問している中国への調査は楽しみ」



代表社員 公認会計士
木村 直人氏

「2011年1月から『IFRSネットワーク』を立ち上げ、上場企業など20社以上が参画して月1回のセミナーを開催。海外調査事例も踏まえて、独自のノウハウ、知見を蓄積したい」

実施されている内容を説明する。

「中国の会計基準は2007年からIFRSに移行しました。原則主義のIFRSでは、絶対的な基準値などが明示されていないため、運用レベルは国ごとに異なるリスクがあります。私たちはI2ANなどのネットワークを駆使しながら、中国に進出した日本企業が現地ですでに、現地の企業間競争を勝ち抜けるようなIFRS情報を提供していきます」(木村氏)。

社名のアヴァンティアは、イタリア語で「前進」、またサッカーでは、フォワードを意味する。調査・提携・支援の三位一体で、日本企業の「中国進出」「IFRS対応」をしながら、フォワードのように業界に決定的な役割を果たしていく——。クライアントの新しいチャレンジこそ、監査法人の前進につながると信じる同社の挑戦は今、始まったばかりだ。



会計士協会主催のフットサル優勝、年2回の社内旅行などチームワークは抜群。若くてパワフルなビジネス感覚のあるメンバーが企業の成長を後押しする